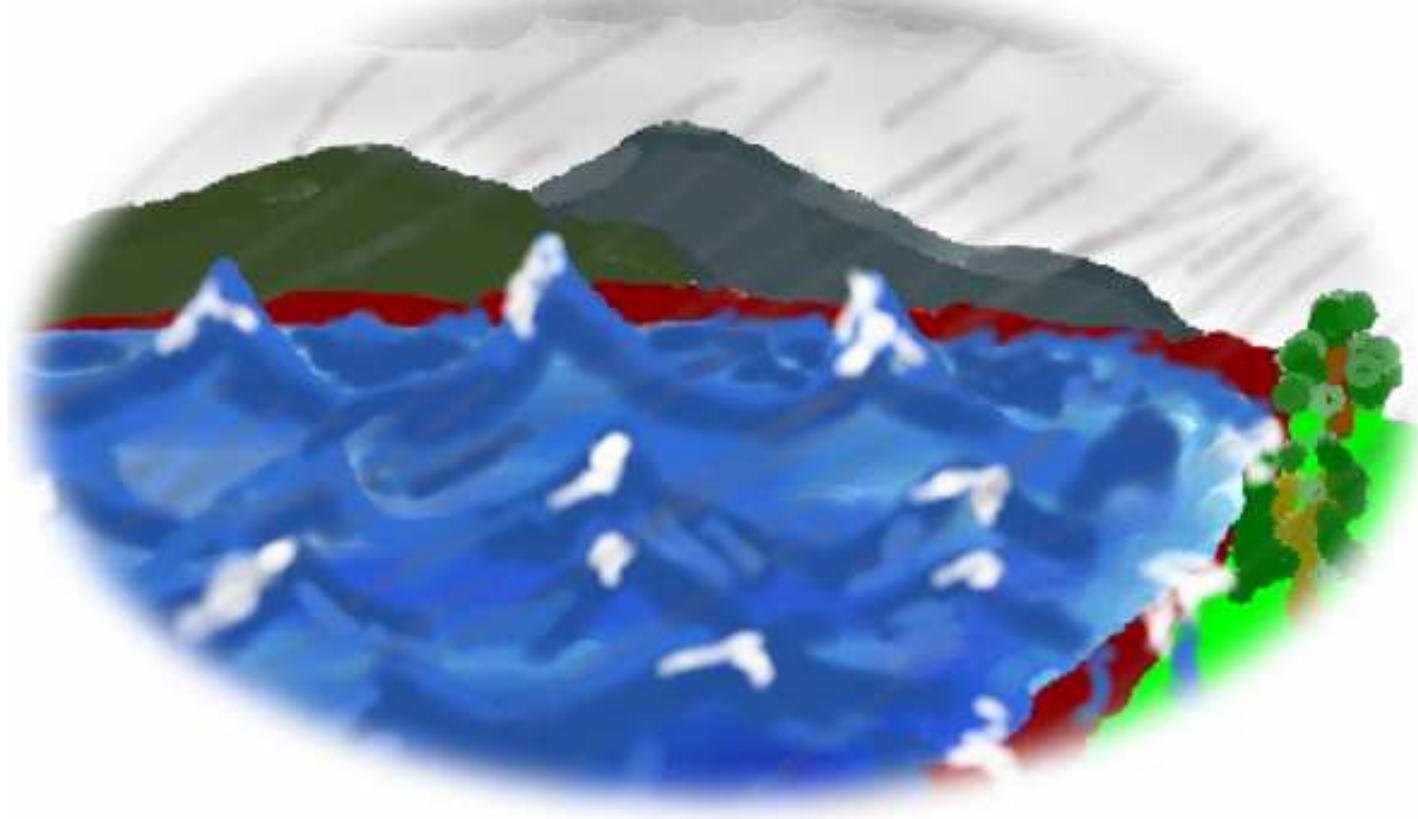
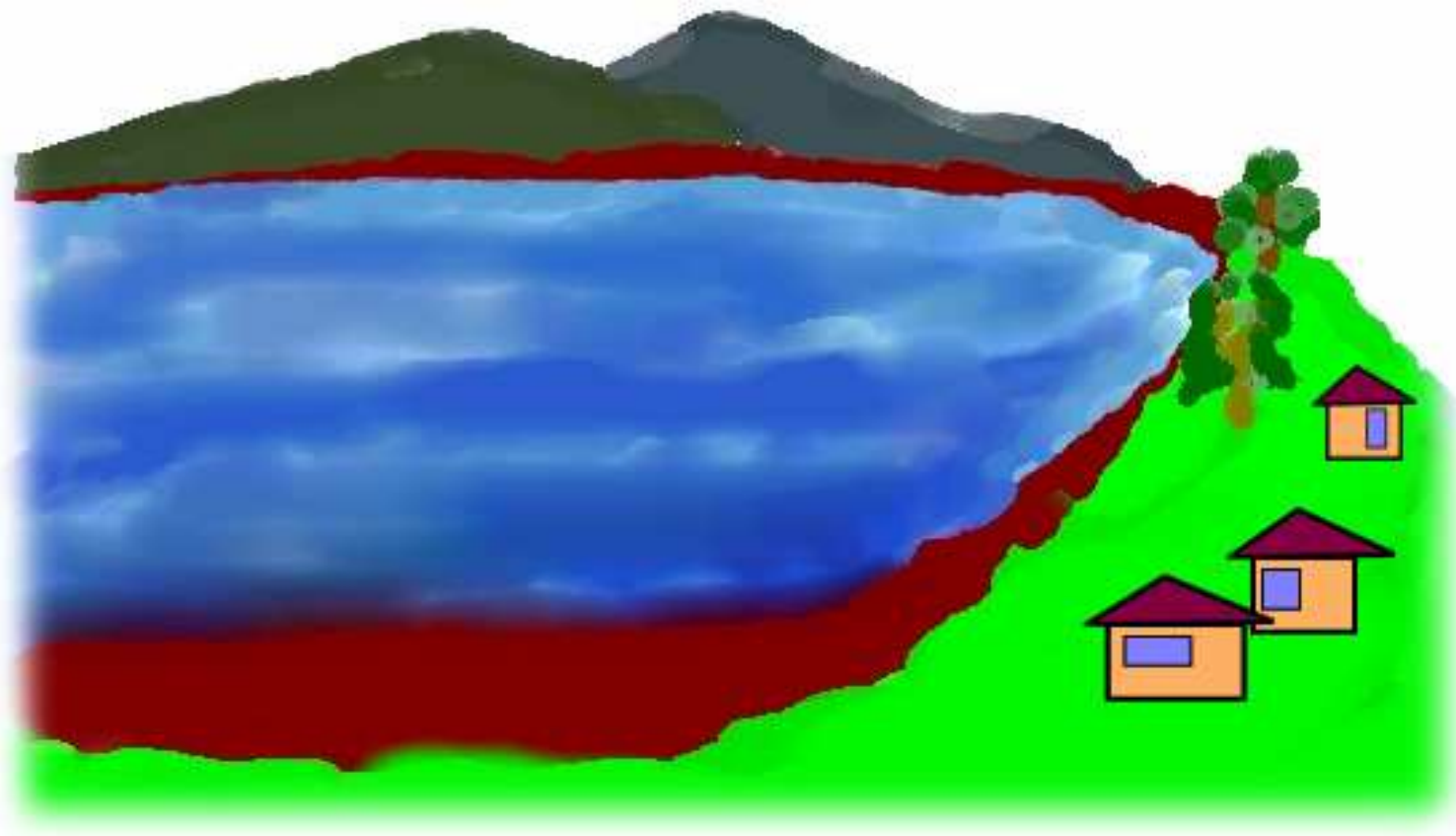


嵐（あらし）と湖（みずうみ）



とうごう じゅん

とおいうちゅう ほし おおきなみずうみ ちいさなむら
遠い宇宙のある星に、大きな湖と小さな村がありました。



みずうみ むらびと せいかつ ささえて みずうみ いきて できません
湖 は村人たちの生活を支えています。 湖 なしで生きていくことは出来ません。



ところが最近、湖の水が時々毒になるのです。



湖の毒で、子どもやお年寄りがもう何人も死んでしまいました。

みずうみ なに ある
湖 には何が有るのでしょうか？

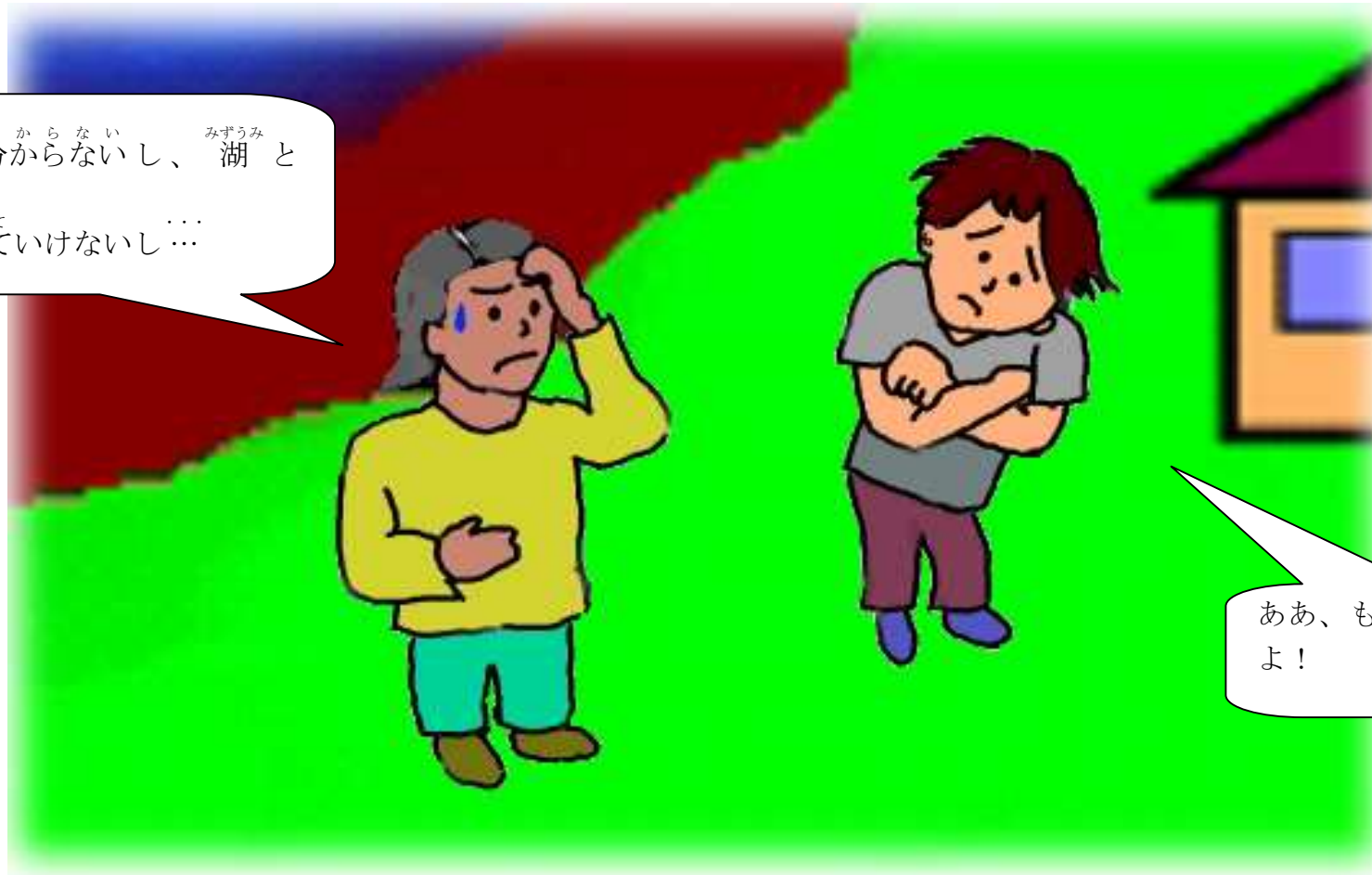


どく げんいん きがすひと
もぐって毒の原因を探す人もいます。

でも、水はにごっているし、冷たいし、湖は広いし、何も見つけることは出来ません。

かといって湖を離れて生きていくことも出来ません。

どく げんいん わからない し、みずうみ と
はなれて いきて 離れては生きていけないし…



ああ、もうどうしようも無いよ!

しかもこの頃、村は、しょっちゅう嵐に襲われるのです。

これでもか、これでもか、と不幸が続きます。まるで村は、呪われているかのようです。

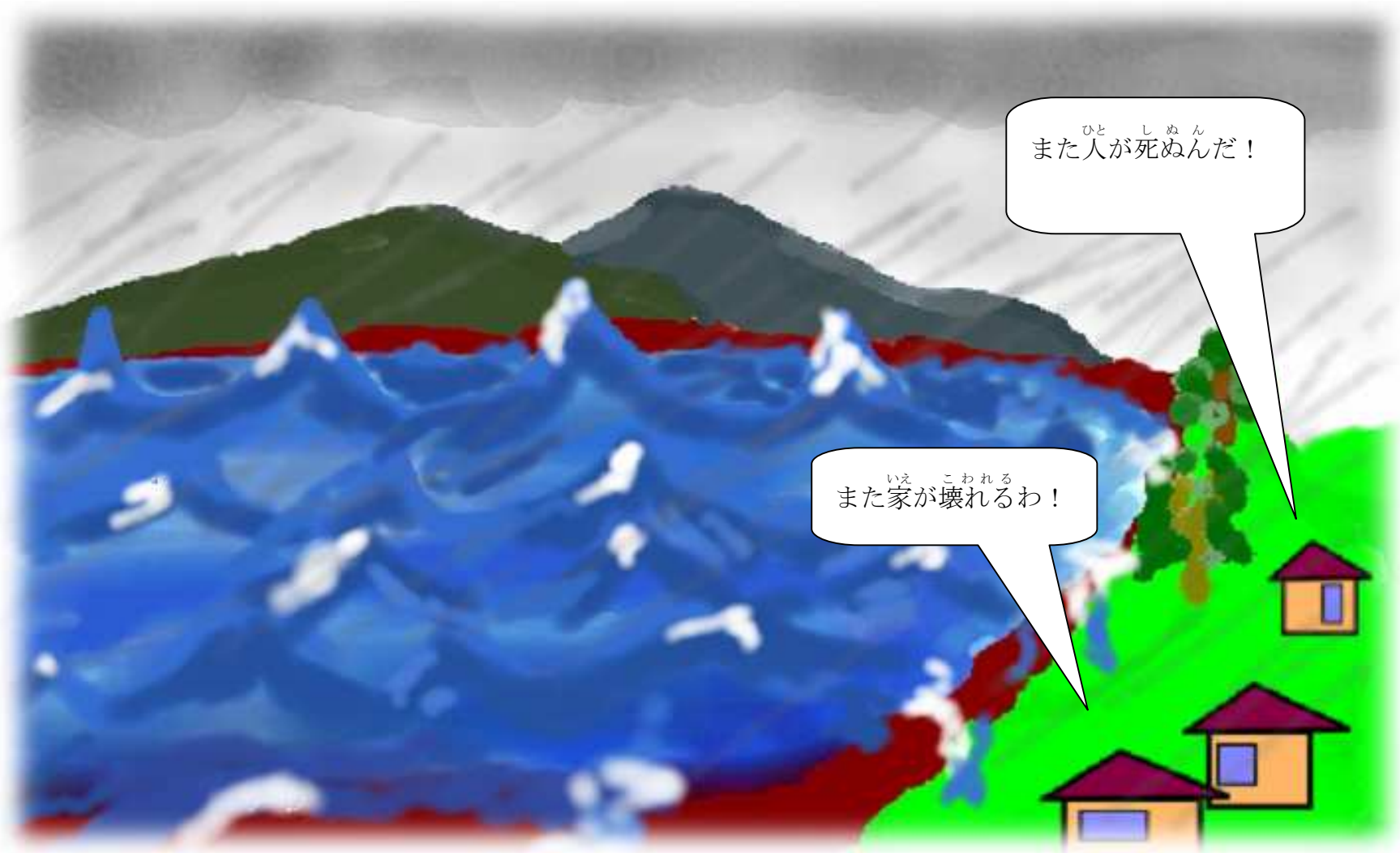


なん おれたち
何で俺たちばかり、こ
んなにひどい目に
あわなきやいけない
んだ？

おれたち なにひとつわるく
俺たちは何一つ悪くないのに！

だれ たすけて
誰か助けて！

ああ、また^{あらし}嵐が^{きました}来ました。^{みずうみ}湖は^{おおあれ}大荒れです。



また^{ひと}人が^{しぬん}死ぬんだ！

また^{いえ}家が^{こわれる}壊れるわ！

みんな怖くて目をつぶって震えています。みんな、みんな泣いています。



ああ、どうして俺たちは
こんなに不幸なんだろう！

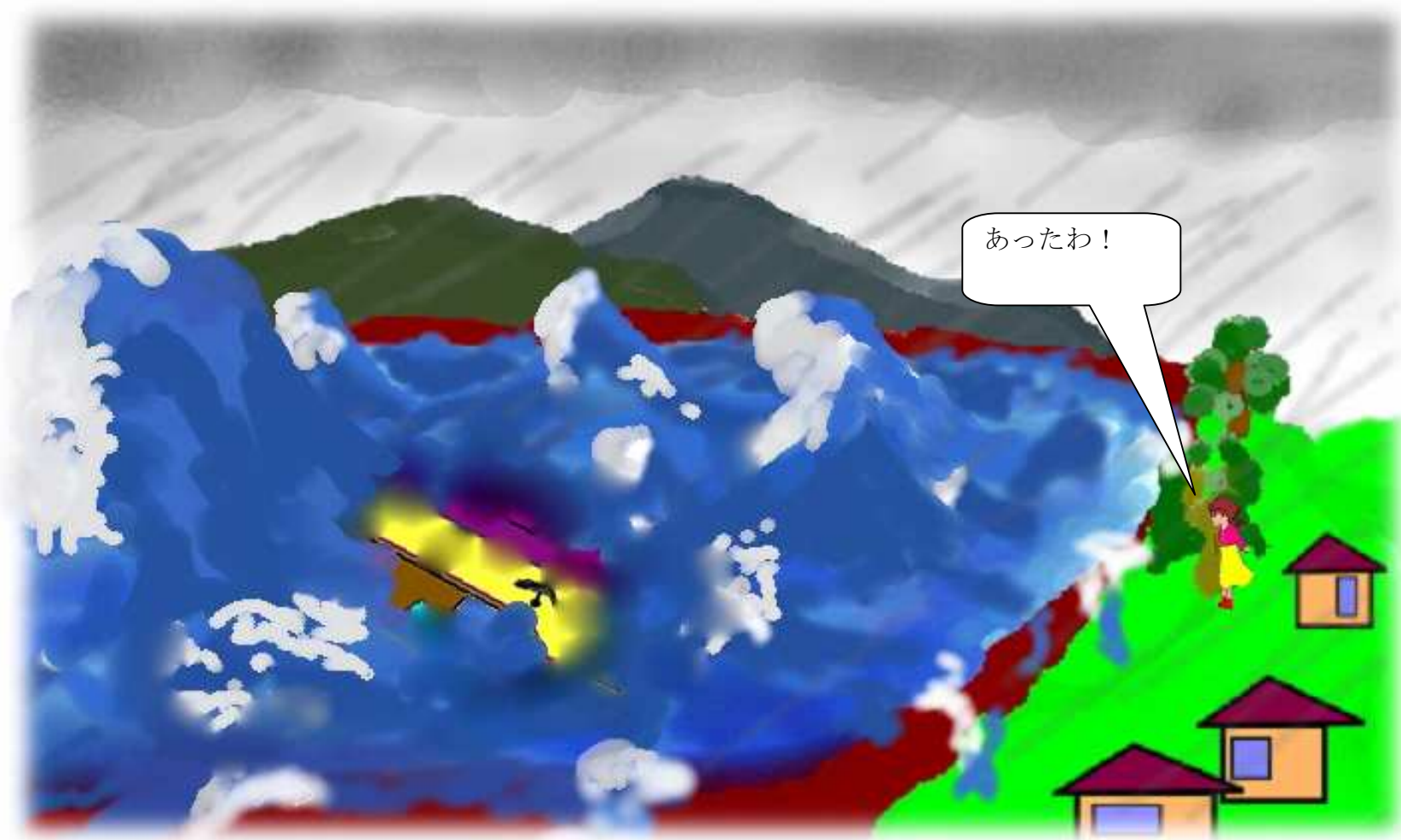
いっそのこと、死んでしまいたい！

ああ、もう何もかも嫌だ！

そんな中、一人の少女が、湖を眺めていました。



つよいかぜ なみ おおきく
強い風で、波がすごく大きくなりました。—あ、一瞬、湖の底が見えました。



あらしあらしが去さりりました。
嵐あらしが去さりりました。

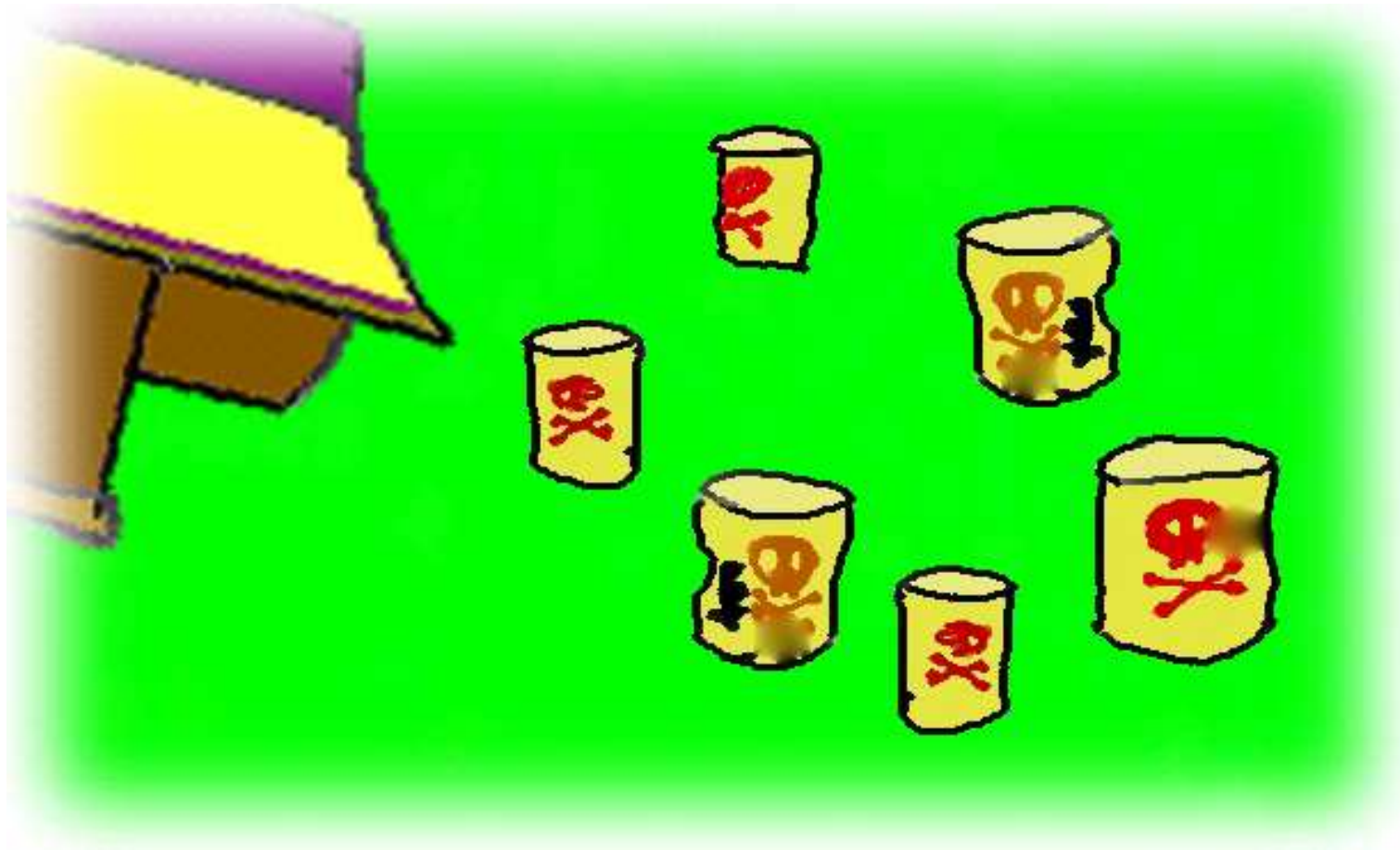


みんなで、^{しょうじょ}少女が^{みた}見た^{こてい}湖底にある^{ふね}船を^{ひき}引き^{あげ}あげ^{ました}ました。



ふね なか どく かん でて ちいさなかん あな ひらいて からっぽ
船の中から毒の缶がたくさん出てきました。小さな缶はいくつか穴が開いて空っぽです。

みずうみ みず ときどきどく かわる げんいん
これが、湖の水が時々毒に変わる原因だったのです。



いちばんおおきなかんには、まだ毒の中身が一杯つまっています。でもこの缶も腐って、もう少しで穴が開きそうです。



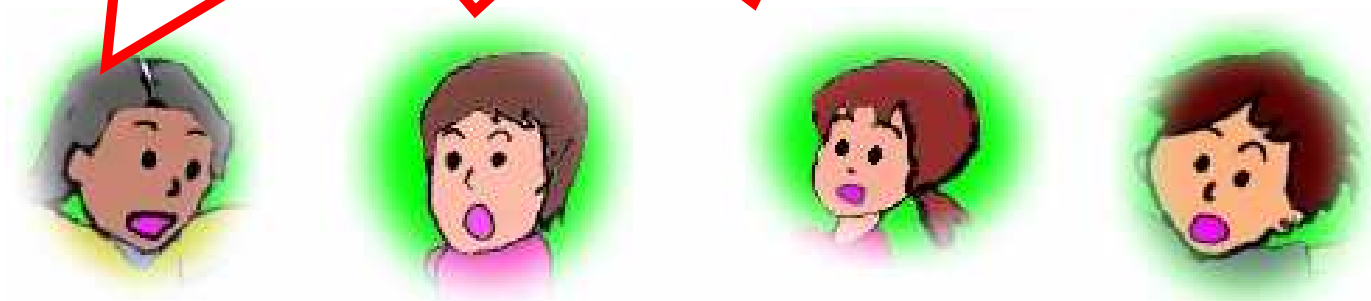
もし、^{あらし}嵐が来なければ…、

もし、^{あらし}嵐が小さくて^{ちいさくて}湖の底が^{みずうみ}現れなかったら…、

もし、^{みずうみ}湖の底が^{そこ}現れたとき^{あらわれた}全員が^{ぜんいん}目をつぶっていたら…、

^{どく}毒を見つける^{みつける}チャンスを^{ちゃんす}失っていた。

そしたら^{むら}村は^{ぜんめつ}全滅だった！



ねえ、^{きみ}君。

^{あらし}嵐のときこそ、^め目を^{あけて}開けて。

あとがき

絵本「嵐と湖」は、様々な現実の嵐—イジメでも、犯罪、テロ、戦争といった問題でも—の中で、悩み、苦しみ、もがき、絶望する方へ向けて、癒しへの祈りの気持ちを込め執筆したものです。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org